

**山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会**  
**第3回動植物の保全に関する専門部会**  
**議事概要**

日時 平成20年7月2日 9:00～10:10

会場 山鳥坂ダム工事事務所 会議室

出席者 松山東雲短期大学 松井教授

愛媛大学農学部 山口准教授

樹木医 得居氏

◇出席者の紹介の後、事務局より当専門部会の位置づけについての説明を実施。

◇その後、資料をもとに議論をし、出席者からは下記のとおり発言がありました。

**1. 資料-1 現地調査結果の概要について**

- ・ ウラシマソウは葉だけでも分かるので、調査の結果確認されていないということは、生育していないのだろう。

**2. 資料-2 圃場整備および仮移植等の実施報告**

- ・ 現在の圃場整備及び仮移植の状況について了解された。

**3. 資料-3 直近に移植する種の移植計画（案）**

**（コシロネ）**

- ・ コシロネは場合によっては間引くことになるかもしれない。条件が良ければ、数週間でランナーを伸ばして新しい子株を作るなど旺盛な栄養繁殖をするため、圃場を優先する可能性がある。繁茂しすぎる可能性がある。新しい種や個体を移植するために、場所の確保をする必要があるだろう。

**（ミズキカシグサ）**

- ・ ミズキカシグサは愛媛県のレッドデータブックにおいてDD（情報不足）にランクしている。全国的に非常に減少している植物で、県内でも精査すれば他の生育地が見つかる可能性もあるが現時点での確認地は少ない。なんとか移植をして欲しい。
- ・ 水路の中だけではなく、上の湿地の中にも移植したほうがよい。おそらく8月の終わりに中干をし、一度水田の水をきり、再び水を張る。その際にミズキカシグサはそれによって発芽するものと考えられる。9月に水が落ちてからぐんと伸びるので、圃場に移植するならば、ずっと水の中にあるのは良くないだろう。

**（オカオグルマ）**

- ・ オカオグルマも非常に減少している植物である。
- ・ オカオグルマの生育地について書かれたものは普通「やや乾いた草原に生育する」とあるので、資料36ページの「やや湿った状態」という表記は「やや乾いた状態」にしたほう

が良いのではないか。

- ・ 草の生えた法面的な場所であれば、移植は簡単だろう。
- ・ 実際には現場が湿った状況であるということもあるのであれば、移植の際、土壌の水分状況は適湿の環境が良いだろう。
- ・ 移植を行った場合、隣接する高茎草本の除去などの管理が必要である。

#### (ムヨウラン及びウスギムヨウラン)

- ・ ムヨウランは実際には非常にたくさんの株が確認されており、時間的な余裕があるのであれば、今回の移植で思うような結果がでなくても他の方法でより確実な移植方法を検討し、可能であれば今回から他の方法で試行することが望ましい。
- ・ ムヨウランの移植は上手く成功させたい。腐生ランの他の種にもその手法が使えるだろう。
- ・ キンランやムヨウランなどの移植では、図面を見るに掘り取りの際にまわりの土を除いて、その土で埋め戻すようだが、植付の時にできれば現地の土を運んで使用したほうが良いだろう。

#### (コバノチョウセンエノキ及びゴマギ)

- ・ コバノチョウセンエノキやゴマギが今回の移植で確実に活着するのであれば、今後確認されるそれらの樹種については、その時々で移植の是非を判断したほうが良い。レッドデータブックの記載種等の保全措置対象種の移植対象種は全ての改変個体の移植を行うとのことになっている前提だが、全てを移植しなくても良いと思う。ランクによって分布の量に大きな違いがある。コバノチョウセンエノキは絶滅危惧Ⅱ類であり、もっとたくさん生育しており、これを全て移植するのは非常に困難であろう。

#### (移植の今後の方針)

- ・ 全体の移植等の保全措置の方針については、基本的に了承された。
- ・ 毎年度工事に入る前に、現地に入っただき、その都度、委員に移植についてご指導いただくこととする。
- ・ 保全対象種の調査結果や新たな対象種への対応について毎年この委員会にて報告し、保全方針を提案していただくこととする。

#### (その他)

- ・ 圃場はよくできているので、保全措置対象種の確認状況によっては、同じようなものがあと1~2箇所必要となる。
- ・ 最終的に湿生植物は野外に戻す環境がないので、湿性の生物公園のようなものを作って欲しい。移植を行うと、ずっと管理をし続けられないといけないという問題がある。

以上